

MATERIAL SAFETY DATA SHEET

1.製品及び会社情報

製品名：液型ポリウレタンフォーム
Urethane Foam Spray 340ml

製造元：

販売元：株式会社カインズ
埼玉県本庄市早稲田の杜一丁目2番1号
Tel：0495-25-1000 FAX：0495-25-1001

緊急連絡先：株式会社カインズ

作成日：2017.04.27

2.有害性・危険性

2.1 有害性・危険性の分類：

有害
極引火性

物理的危険性
爆発物：レベル1.4(区分5)
引火性エアゾール：区分1
引火性物質

健康有害性
急性毒性(吸入)：区分4
皮膚腐食性/刺激性：区分2
眼の酷い損傷/眼刺激性：区分2
特定の標的臓器毒性(1回露出)：区分2
特定の標的臓器毒性(反復露出)：区分2

2.2 予防措置文句を含む警告表示項目

警告標識



信号語：危険
有害・危険情報
火災や発射の危険
極引火性エアロゾル

皮膚に刺激を起こす
アレルギー性皮膚反応を引き起こす可能性がある
眼に重傷刺激を起こす
吸入すると有害
長期または繰り返し接触されると、臓器に損傷を引き起こす可能性がある

予防措置情報

熱・スパーク・火炎・高温のものから遠ざけること - 禁煙
火気またはその他の発火源に噴射をしないこと
圧力容器：使用しても穴を開けたり、焦がさないこと
粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと

粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーの吸入を避けること
 取扱い後は手をよく洗うこと
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること
 作業場から汚染された衣服を出さないこと
 保護手袋・保護の・保護眼鏡保護具を着用すること
 皮膚に付くと多量の水と石鹼で洗うこと
 吸入した場合空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で安定を講ずること
 眼に入った場合水で数分間注意深く洗うこと次に、コンタクトレンズを
 取り除くこと洗い洗うこと
 暴露したり、不快感を感じたら医療機関(医師)の助けを受けること
 不快感を感じたら医師の診察を受けること
 不快感を感じたら、医学的な措置・助言を求めること
 皮膚刺激が生じた場合、医学的なアドバイス・手当てを受けること
 皮膚刺激性や紅斑が表示現れたら、医学的なアドバイスを受けること
 眼の刺激が続く場合医師の診断を受けること
 汚染された衣服を脱ぎ、再使用前に洗濯をすること
 再使用前に汚染された衣類は洗濯をすること
 密封して保管すること
 直射日光を避け、50℃以上の温度に当てないこと
 国の規定に基づいて内容物/容器を廃棄すること

3.構成成分の名称及び含有量

Component	CAS No	Concentration
Diphenylmethane diisocyanate	9016-87-9	25%
Diphenylmethane-4,4-diisocyanate	101-68-8	15%
Polypropylene triol	25791-96-2	20%
1-Chloro-2-propanol phosphoric acid	13674-84-5	15%
Propane	74-98-6	5%
Butane	106-97-8	10%
Dimethyl ether	115-10-6	10%

予防措置分類

極引火性

有害性

刺激による有害性

目、呼吸器及び皮膚への刺激

刺激と皮膚の接触によって敏感になりやすい

注意！エアゾール容器は加圧されているので+50℃以上の温度に当てないこと
 噴射直後のフォームは皮膚や衣服に簡単に埋め込むことがある

製品の使用によって発生することのある症状：

吸入：蒸気は鼻と上部呼吸器を刺激することがある

皮膚接触：一部を刺激して腫れたり赤くなることある

目に入った場合：目を刺激することができる。製品の接着力の製で目に接触した場合、
 物理的な損傷が与えられることがある

摂取時：口の中の粘膜や消化器官に刺激を引き起こす可能性がある

4.応急措置

吸入：きれいな空気があるところに移動すること。必要によって人工呼吸を実施すること
 皮膚接触：布を利用し、フォームを取り除くこと。汚染された衣服を取り除くこと。エタノール
 (目との接触を避けて)のような溶媒を使用して硬化していないフォームを取り除くこと
 硬化したフォームは石鹼で洗ったり、多量の水で洗い流して除去できる。刺激がひどく
 なった場合クリームを塗る

目に入った場合：15分以上、多量の水で目を洗うこと。すぐに医師に相談すること

飲み込んだ場合：嘔吐を強制せずに意識がある場合は患者に口を洗わせること。患者が眠っ
 たり意識がない場合、口のと口で人工呼吸をせずに適切な呼吸医療機器を利用すること

他の場合には水を飲ませること。暖かい環境を提供し、左に倒すこと
医師にすぐに診察受けること

5.爆発・火災時の対処方法

適切な消火装置:

CO₂、乾燥化学薬品、大量使用の場合水の噴射

火災に露出された時、特に火災の危険:

製品の蒸気(ガス)は空気より重い。これは地上に滞在したり換気扇を通して移動する場合があります。蒸気(ガス)は危険である

火災時に使用される特殊な安全装置:

消防士は防護服に加え、独自の呼吸装置を着用しなければならない。消火装置を使用するときに注意しなければならない。顔面保護機構とマスクを着用する。呼吸系の保護装置がなければ火災区域に入らない

安全を理由に使用してはいけない消化媒体

データなし

その他の処置事項

燃焼ガス、ガスを避けて下に移動する。硬化されたフォームは有機物であり、十分な熱気、酸素と炎があれば燃える

6.漏出事項時の対処方法

6.1 人体を守るために必要な処置事項及び保護具

顔面保護具と保護の手袋を着用すること。換気の良い場所で取り扱うこと。禁煙すること
スパークを避けること

6.2 環境を保護するために必要な処置事項:空容器を廃棄し、硬化されたフォームはプラスチックで分類すること。汚染された空間を清掃すること。下水道への流入を防止すること

6.3 浄化もしくは除去方法:硬化されていないフォームは簡単に付くので注意しながら除去する必要がある。付いたフォームは布とエタノールのような溶媒ですぐに除去する。硬化したフォームは物理的に除去できる

6.4 他の項目での参考事項

爆発の可能性がある

7.取扱い及び保管方法

7.1安全な取扱い方法

容器を加熱したり穴を開けないこと。他の化学物質と混合しないこと
容器は、加圧されてあるので+50° C以上の温度に露出しないこと
換気の良い場所で取り扱うこと。禁煙すること

7.2安全な保管方法

保存:酸化剤、ゴム、プラスチック、アルミニウム、金属と一緒に保管しないこと。直射日光を避け、換気の良いところで保管すること。理想的な保存温度は5~25°C
涼しい場所に保管すること。加圧容器の適切な保存方法を熟知すること。この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。子供の手の届かないところに保管すること

8.暴露防止及び個人保護具

作業環境:

十分な換気が行われる場所での作業すること

呼吸器の保護:

換気がよくできないところでは、呼吸器を保護しなければならない。このような場所に長くいる場合には、呼吸器を必ず着用しなければならない

皮膚の保護:ポリエチレンやブチルゴムで作られた手袋

目の保護:保護メガネ

吸入:ポリウレタンフォームを使用中に食べたり飲んだり、喫煙をしないこと。作業後、手や顔を洗うこと

フォームは、大気中で空気にあうと膨張する

9.物理化学的特徴

9.1一般的な情報:

外観: 高压容器に入れられた濃い色の液体。外部: 噴射後薄いアイボリー色のフォーム
におい: 特有のにおい

9.2健康、安全、および環境に重要な情報pHデータなし

沸点: データなし

融点: データなし

引火点: <0° CC(propane/ butane, dimethyl ether)

引火性(固体/気体): 極引火性(propane/ butane, dimethyl ether)

自然発火温度: >+350° C

引火または爆発範囲の上限/下限

a) 下限1.5%

b) 上限11%

蒸気圧: 加圧された容器内で蒸気圧は500Kpaを超過する

比重: 1.2g/ cm³

蒸気密度: データなし

溶解度: 溶解性なし。硬化中の水とゆっくり反応する

9.3その他の情報: 噴射されたガスは沈む。空気より二倍高い密度を持つ

10.安定性および反応性

10.1化学的安定性と有害反応の可能性: 通常の保管時に安定する

10.2避けるべき条件: +50°Cを超える保管温度は避けること。機械的衝撃から保護すること
熱と湿気を避けること

10.3避けるべき物質: 水と非結合水素原子を含む物質と強く反応

10.4分解時生成される有害物質: データなし

11.毒性に関する情報

Diphenylmethane diisocyanateの異性体と同族体

急性毒性: LD50 = 5000mg/kg (rat)

皮膚接触: LD 50 = 5000mg/kg (rat)

刺激性: 眼を刺激する。角膜への損傷を引き起こす可能性がある

アレルギー: 長期間の皮膚接触はアレルギー反応を引き起こす可能性がある。発生した蒸気は呼吸器系に咳、呼吸のつらさ、頭痛の問題が出る可能性がある。症状はゆっくりと現れる

12.環境に与える影響

12.1生態毒性: データなし

12.2残留性及び分解性: データなし

12.3生物濃縮性: データなし

12.4土壌移動性: データなし

12.5 PBTとvPvB結果

PBT: 該当なし

vPvB: 該当なし

13.廃棄上の注意

13.1廃棄方法

廃棄物管理法に定められた場合、規定に基づいて内容物及び容器を廃棄すること

硬化されたフォームは、一般的なゴミとして処理できる

決して下水道や河川などに漏らしてはならない

完全に空になった容器は、一般的な鉄ゴミとして処理できる

残留ガスを除去した後一般ゴミと区別して捨てること

空たものでも子供の手の届かないように保管すること

14.輸送に必要な情報

陸上輸送: ADR/RID Class 2/5 F
警告表示: Aerosols UN 1950
海上輸送: IMDG: 2 Class 2.1 UN 1950 EmS F-D, S-U
(技術名称:エアゾール)
航空輸送: ICAO/IATA Class 2.1 UN 1950
(技術名称:エアゾール) Package type III

15.使用法令

この製品はEEC規定に基づいて表示される
警告表示に関する情報:
記号:



F+ 極引火性

ES: Extremadamente inflamable	ES: Nocivo
DA: Yderst brandfarlig	DA: Sundhedskadelig
DE: Hochentzündlich	DE: Gesundheitsschädlich
EL: Εξαιρετικά εύφλεκτο	EL: Επιβλαβές
EN: Extremely flammable	EN: Harmful
FR: Extrêmement inflammable	FR: Nocif
IT: Estremamente infiammabile	IT: Nocivo
NL: Zeer licht ontvlambaar	NL: Schadelijk
PT: Extremamente inflamável	PT: Nocivo
FI: Erittäin helposti syttyvä	FI: Haitallinen
SV: Extremt brandfarligt	SV: Hälsokadlig



Xn 有害性

容器は加圧されているので+50° C以上の温度に露出しないこと。使用後にも穴を開けたり燃やさないこと子供の手に触れないようにすること。熱、火炎、火花、静電気、または他の点火源に噴射しないこと

16.その他の参考情報

適用に関しては製品ラベルと情報を確認こと適用の目的: 建築要素のシーリング及びマウンティング使用方法: 容器をよく振って使用すること。使用前に缶を適切な温度で自然持っていくこと。ノズルあるいはGUNを容器バルブに回す。注入ノズルあるいはGUNハンドルに作用する圧力を調節し、噴射量を調整すること。容器から出て行けばフォームはその量が大きくなる。硬化されたフォーム超過分はナイフでカットすること。硬化されたフォームは、太陽及び直射日光から保護すること。低い温度では、フォームが徐々に膨張して硬化される

その他の情報 製品を+50°Cを超えているところに置かないこと
追加情報入手先: 製品安全データシートで使用されている情報出処
Rイディオム

R20吸入による危険

R36/37/38目、呼吸器管及び皮膚刺激

R42/43吸入と皮膚接触によって感作を引き起こすことがある

現在のデータに関する内容とフォーマットは、その中でも、特にヨーロッパの指示文と互換性がある。1999/45/ EC、67/548/ EEC、2001/58/ EC情報がその正確性に対する保証なく提示されても材料安全データシートに含まれている情報は保証された出処から取ったものである。本製品の取り扱い、保管、あるいは適用手続に関する条件は、私たちが調節できないものであり、当社の知識を超えるものであることもある。これが誤っていたとしても当社はそのような責任を負わない。当社は、本製品を扱うか、または保管、あるいは廃棄するときに発生した損失、損傷あるいは支出の責任を負わない

MSDSは2001年6月6日セレナMSDSを基準にKOSHA DATA方法で作成した

本材料安全データシートは本製品のために作られ、これに関連してのみ適用されなければならない。もし本製品が違う製品の成分として適用されると、本資料に含まれる情報は適用されない

